

Title	日本精神生成史論 中世篇(鈴木重雄著, 理想社發行)
Sub Title	
Author	淺子, 勝二郎(Asako, Shojiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1936
Jtitle	史学 Vol.15, No.2 (1936. 7) ,p.193(361)- 194(362)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19360700-0193

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

との闘争に存するものであるとし、切支丹傳道禁壓問題は單にその現實的發生の契機となつたに過ぎないとせられた邊り、その切支丹問題に對する豊富な説明に比較しても、先の商業資本との鬭争に存するとせられた見解に、もつと具體的な説明を求めて、

又第三章『幕府官僚の構成』に於ける記述は本書の他の部分に比し、多く平面的羅列に止り、その特質例へば合議制、月番制等の問題に著者の見解を窺ひ得られなかつたのは殘念である。

幕政の停頓、崩壊過程について著者の敍述方法は極めて滑らかで、特にその時代の事象に對する社會的批判を、多く當時の根本史料、或はインテリ的視角を有する當時の識者の言に求めて、著者は更に客觀的にその論旨の統一を謀るあたり、新進史家の筆として流石とうなづかせるものがあり、又一方その敍述には新進史家ののみのもつ熱と意氣とに溢れてゐる。

本書は紙數の都合上、その敍述を天保の改革に止め、それ以後については結語として數頁にそのあらましを記したのみであるのは遺憾である。幕末、維新政治史は實に近世政治史に於ける重大問題として見逃す能はざるものである事は謂ふ迄もなく、又、それを現代政治史の發端にのみ任すべきものでない事は勿論である。もし本書に就いて十分な論述ができないのなら、本叢書中特に維新史の一卷を設けて政海、外交、經濟の各部門に亘つて餘裕ある論述を求めてい。

要之、本書は現在の新進學徒間の空氣を反映するものとして、且又出づべくして出でざりし新體系の近世政治史として、正に重要な學的貢獻をなすであらう事を信じて疑はない。(高橋碩一)

日本精神生成史論 中世篇 (鈴木重雄著 理想社發行)

本書は裏の上代篇に次いで平安時代から鎌倉時代までを取扱つてゐる。

著書に依れば、平安時代人は個體としての自覺は盛んであつたが、之に比例して全一的の方面は弱い傾向を示し、全精神の主な部分が個體面に集中するに至つた。しかもその自覺たるや、多くは自然人としての自覺に止り、小我に執着せしめるものであつたゝめ、社會は物質慾名譽慾等の充足を目的とする利己主義者の活動舞臺となり、斯くして譎詐嫉妬陰謀等の盛行となつた。又一方不安焦燥の生活を營む畸形的精神生活者となり、こゝに迷信が喰ひ入り、祟り物の怪穢れ等が盛に唱へられ、ト占等の方法に依つて事物の原因を探り、神佛への祈願に依つて脅威から免れやうとした。

以上のやうな傾向は平安時代の末期に飽和状態に達し、鎌倉時代の初期には全體に歸一せんとする萌芽を見、政治形態としては鎌倉幕府となり、文化形態としては淨土宗日蓮宗禪宗等となつた。文の京都武の鎌倉、感情の京都意志の鎌倉が相抗争し相融合して再び全體的統一的の日本精神を顯現せんとしてゐるといふのである。

著者は斯る見地から平安時代の初期が日本精神の生成上極めて重要な轉廻期なることを強調するために過去を回顧し前途を展望し時代の概念を明にしてゐる。

平安時代は章を分つこと八（平安時代の概觀、國の重心の動搖、國權の衰退實力の進出、腕力團體、精神生活の形想實體、精神生活の不安定、宗教團體、團體抗爭）鎌倉時代は五（鎌倉時代の概觀、鎌倉幕府、鎌倉幕府の政治行動、鎌倉時代の精神、鎌倉時代の末期）

近來思想史精神史と名付くるものが多く世に出るが本書は確に異色あるものとして注目に價すると思ふ。（菊判本五三二頁、定价參圓五拾錢）（淺子勝二郎）

昭和十・十一年度三田史學研究會例會報告

昭和十年

九月二十七日（金）午後三時於交詢社中食堂（第二百五十二回例會）

黨項に於ける拓跋姓に就いて

三橋富治男君

支那金銀の形式に就いて

加藤繁氏

研究餘談（特に信州追分に於ける研究調査に關して）

幸田成友氏

上代墳墓之文獻考交察
卒業生送別會

十月三十一日（木）午後三時於交詢社中食堂（第二百五十三回例會）

一八七〇年の英米條約成立事情に就いて 佐藤正三君

吉田小五郎氏

古部百太郎氏

十一月二十一日（木）午後三時於交詢社會議室（第二百五十四回例會）

古本あさり

宮島貞亮氏歸朝並新入生歡迎會

上代に於ける支配的生產としての農業 德永康信君

ギリシャ復辟問題

内藤智秀氏

昭和十一年一月二十一日（火）午後三時於交詢社中食堂（第二百五十五回例會）
佛教傳來と道教發生の關係に就いて 石川博道君

新發掘文書による古アッシリア帝國說否定の立證
間崎万里氏

二月十二日（水）午後三時於交詢社中食堂（第二百五十六回例會）

卒業論文披露會（西洋史・東洋史）

近世スペイン宗教審問所の組織に就いて 山口清重君

西夏の發生史的考察

三橋富治男君

唐代に於ける廢佛

高橋誠一君

二月二十一日（土）午後三時於山水樓洋間（第二百五十七回例會）
卒業論文披露會（國史）

古代に於ける部民の勞働

徳永康信君

ブリューブック「日本通貨」（一八六六年提出）に就いて

高橋磧一君

研究餘談（特に信州追分に於ける研究調査に關して） 保坂三郎君

上代墳墓之文獻考交察
卒業生送別會

五月二日（土）午後三時於交詢社中食堂（第二百五十八回例會）
享保十五年七月の御買米令について 會田倉吉君

支那歸朝談

宮島貞亮氏歸朝並新入生歡迎會

半濟に就いて

屋代正美君

五月十四日（木）午後三時於交詢社中食堂（第二百五十九回例會）